

8 市 連 携 市 長 会 議

日 時 令和 4 年 7 月 29 日 (金)
午後 3 時～午後 4 時 30 分
場 所 横浜市庁舎 31 階レセプションルーム

会 議 次 第

1 開会

2 座長あいさつ

3 議題

- (1) 8 市連携のこれまでの取組 (資料 1)
- (2) 専門人材の育成・確保について (資料 2)
- (3) プラスチックごみの発生抑制のための啓発活動について (資料 3)
- (4) 8 市の未来予測について (資料 4)
- (5) その他

4 まとめ

5 閉会

出席者

横浜市	市長 山中竹春
川崎市	市長 福田紀彦
横須賀市	市長 上地克明
鎌倉市	市長 松尾 崇
藤沢市	市長 鈴木恒夫
逗子市	市長 桐ヶ谷 寛
大和市	市長 大木 哲
町田市	副市長 榎本悦次

8 市連携のこれまでの取組

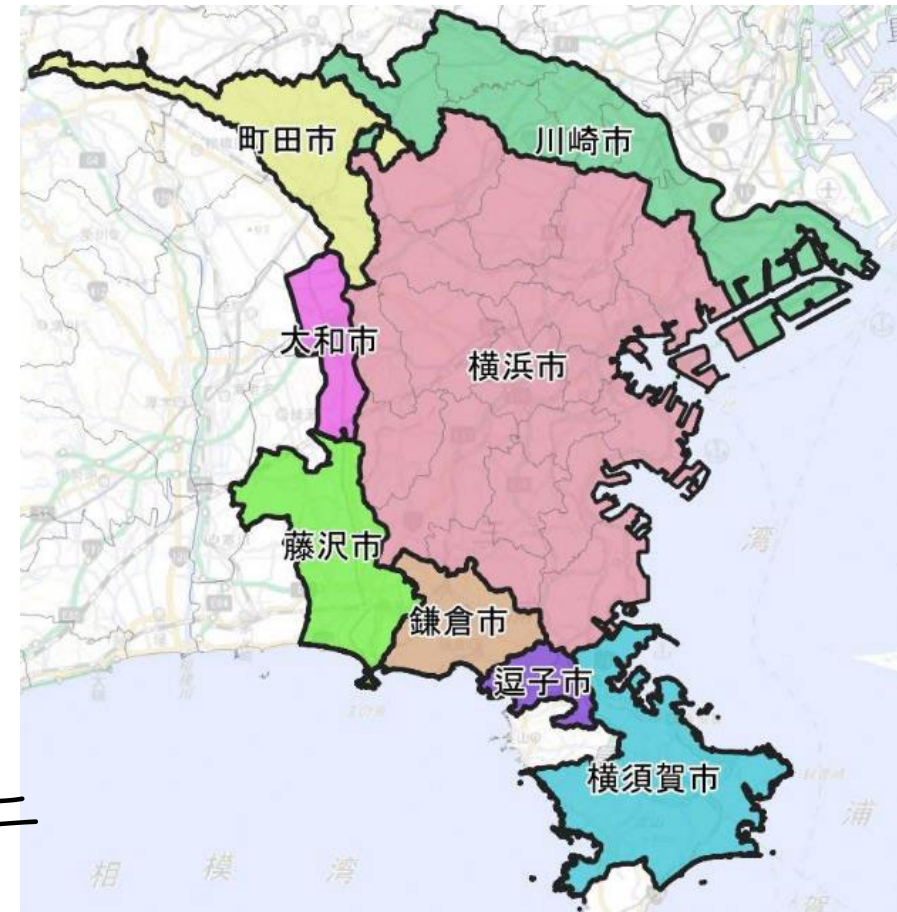
8市連携の概要

8市連携とは

横浜市、川崎市、横須賀市、鎌倉市、藤沢市、
逗子市、大和市、町田市の8市で構成

目的

基礎自治体ならではの視点から、水平・対等の関係で、
圏域全体の「行政サービスの維持・向上」、「地域コミュニティの活性化」、「持続可能な成長・発展」等を目指す



これまでの連携事例

図書館相互利用の開始

各市間で図書館の「相互利用に関する協定」を締結

観光施策の取組

インバウンド向け英語観光マップ
「Day trip from Yokohama」の作成



災害時における相互応援

- ・震災時の応援（食料等の提供、被災者救出、施設相互活用等）
- ・事前対策（連絡体制整備、防災訓練の相互参加）

横浜市と横須賀市の連携

- ・サイクルスタンプラリー
- ・音楽イベントへの相互参加

横浜市栄区と鎌倉市の連携

市境のハイキングコースに案内看板を共同設置

8市の取組

◆8市連携市長会議の開催（平成30年7月）

2040年頃における課題（少子高齢化、公共施設老朽化、東京都区部への一極集中等）を見据え、8市が連携して短期、中長期の両面から取り組むことを合意。

◆令和元年度、令和2年度

総務省委託事業「新たな広域連携促進事業」を活用、中長期的な共通課題の研究・検討を実施

令和元年度

8市の長期的見通し及び課題解決に向けた連携施策を検討するため、現状や将来推計についての基礎調査等を実施。

調査結果等を踏まえ、「行政サービスの維持・向上」を実現するための取組の方向性を考察するとともに、8市連携の今後の進め方について協議。

令和2年度

元年度の基礎調査でまとめた方向性を深掘りするとともに、ポストコロナ時代を見据え「新たな日常」を構築するために必要な連携施策や中長期的な協力関係を協議。

- ・「8市の未来予測」の整理
- ・若手職員勉強会の実施
- ・8市の連携施策を検討・協議

8市の取組（令和3年度 スタディミーティング）

目的

- (1) 広域連携について「知る」
- (2) 8市の将来や8市間の連携の可能性について「考える」
- (3) 様々な意見やアイデアを政策として「提案する」
- (4) 8市職員のネットワークづくり

参加者

2040年頃※に8市の中核を担う世代の職員 28名

※総務省が提唱する「地域の未来予測」では、全国で人口減少や高齢化が顕著に表れるのが 2040年頃とされている。



実施回数

全4回

8市の取組（令和3年度 スタディミーティング）

➤ 第4回で8市部局長へ政策提案を発表

A 市民サービス充実のための シティ・ユニオン 8aas-8cities as a service

未来を担う若い世代の定住化促進を8市連携の方向性に設定し、弱みを克服する連携施策「保育環境の整備」と、強みを伸ばす連携施策「スモールツーリズム」を提案

B 銀河系社会福祉構想 ～ポジティブな少子高齢社会 を目指して～

少子高齢社会を「高齢者の活用」×「孤育て」によってポジティブに転換。8市というフィールドをひとつの銀河系に見立てた「銀河系社会福祉構想」を提案

C 2040年大人になる 子どもたちへ ～ボーダーレスシティを目指して～

最小の費用で最大の効果を生み出す連携施策。暮らしの市境を無くし、一つの国に見立て、子育て支援、情報と人の動きの活発化、地域経済の活性化について提案



8市の取組（令和4年度 スタディミーティング）

○令和3年度と同様に、2040年頃に8市の中核を担う
世代の職員 24名で実施

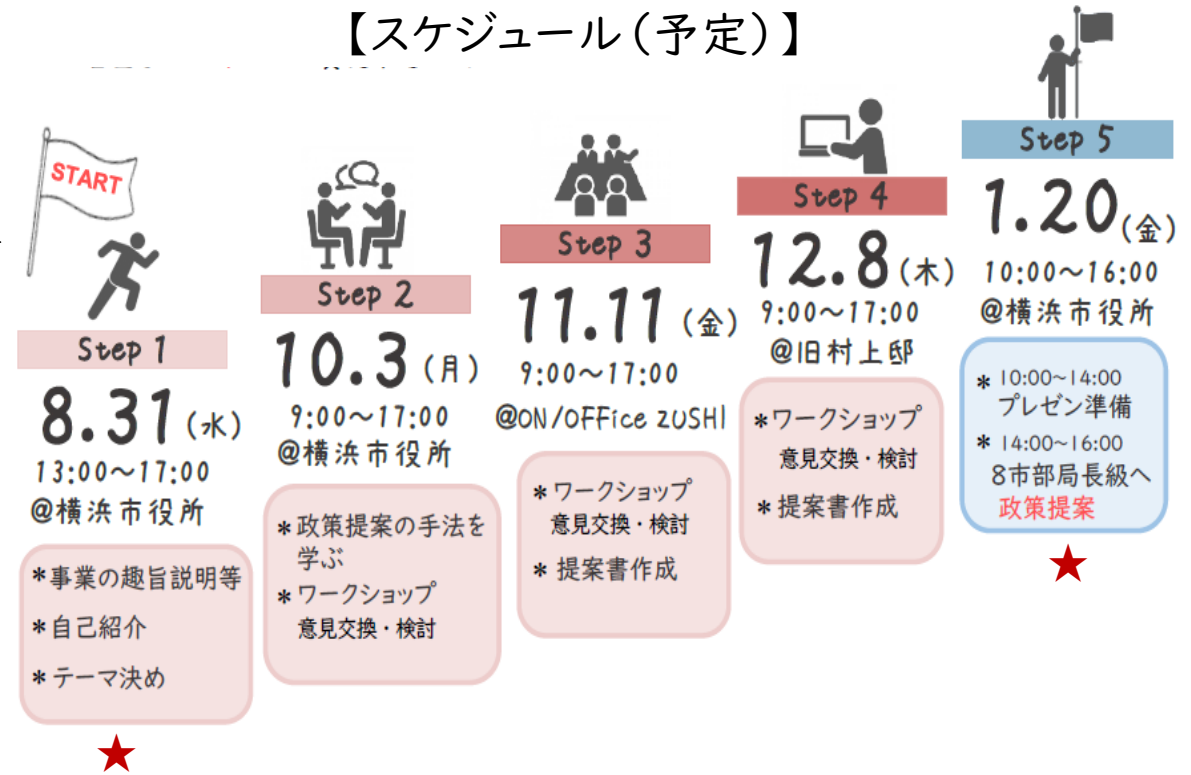
○全5回、プレスオープン予定（P）

○第5回で8市部局長への政策提案を発表

○実施場所は、8市の施設を利用

- ・横浜市庁舎
- ・逗子市ワーケーションスペース
「ON/OFFice ZUSHI」
- ・旧村上邸-鎌倉みらいラボ-

【スケジュール（予定）】



令和3年度8市連携市長会議の合意事項

市長会議（令和3年5月11日 WEB会議）

今後、8市連携のテーマとして検討を進めていくことを合意

① ウィズコロナにおける行政課題について

各市が現在取り組んでいるデジタル化やテレワーク等の施策（好事例）について、取組状況・効果を8市で共有するとともに、可能な市間での連携、更には順次拡大を検討します。

② 専門人材の育成・確保について

技術系をはじめとした職員の共同育成や採用方法、退職後の能力活用も含めた人材確保の在り方等について、研究・検討を進めていきます。

③ プラスチックごみの発生抑制のための啓発活動について

深刻な海洋汚染につながるプラスチックごみの発生抑制のための啓発活動などの取組について、今後、8市連携のテーマとして検討を進めます。

専門人材の育成・確保に関する検討の報告

Ⅰ 開始の経緯

◆8市連携市長会議の開催（令和3年5月11日）

- ・専門人材の育成・確保について提案・議論
- ・今後、8市連携のテーマとして、技術系をはじめとした職員の共同育成や採用方法、退職後の能力活用も含めた人材確保の在り方等について、研究・検討を進めていくことを合意

◆事務レベルで検討会を設置・開催

令和3年度：3回、令和4年度：2回

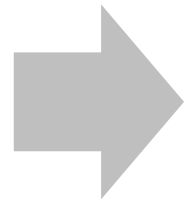
2 各市の現状（技術系職員）

【各市の現状】

民間企業等との競合

応募者数の低下

技術職員の欠員



【各市での対応・工夫】

受験しやすい日程への変更

採用試験の見直し（SPIやWEB面接等の導入）

複数回試験を実施

他の職種での置き換えでの対応

退職した人材の活用 → 8市での連携を検討

3 検討状況・今後の方向性

① 退職後の能力活用（退職した人材の活用）

複数の市において再任用終了後（65歳以上）の自市の職員を会計年度任用職員又は任期付職員として任用実績あり



○65歳以上の新たな働き方の選択肢として、住んでいる自治体等で働きたい地元貢献意識のある人材を活用

○各市の再任用終了後（65歳以上）の人材を8市で活用するため、各市の募集情報の共有方法等を整理し、令和5年度からの開始を視野に取り組んでいく

3 検討状況・今後の方向性

② 職員の共同育成

検討会を契機に各市の相互理解やスキルアップを目的に研修を実施

○研修の相互参加

令和4年5~6月 横浜市の建築基礎研修、土木基礎研修へ各市が参加（約40名参加）

○8市合同研修

令和4年秋~冬 パシフィコ横浜ノース視察会実施予定

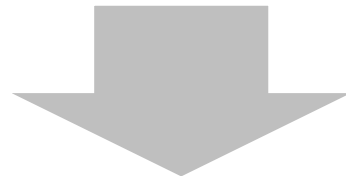


各市の相互理解やスキルアップ・交流を目的とした研修の相互参加や合同研修等を連携し引き続き取り組んでいく

3 検討状況・今後の方向性

③ 採用方法等

○民間企業との競合に対応するため、自治体の技術職のやりがいや魅力を共同で広報・PR



引き続き、8市で意見交換、情報交換しながら共同での広報等を検討していく

8 市連携海洋プラスチックごみ削減 のための啓発活動に関する検討会 報告

1 検討の目的・背景



・平成30年夏 鎌倉市由比ガ浜海岸に打ち上げられたシロナガスクジラの赤ちゃんの胃からプラスチックごみが発見され、深刻な海洋汚染の事実が改めて認識させられた。

・海中ごみ・海岸漂着ごみの7割から8割は陸で発生し、河川を通じて流れ着いたものであることから、根本的な解決のためには、広域的な視点での取組が必要である。



令和3年5月 市長会議で深刻な海洋汚染につながるプラスチックごみの発生を抑制するため、一斉清掃や啓発活動などの取組について検討を進めることを合意した。

2 検討会での経緯

令和3年10月 海洋プラスチックごみ削減のため先進事例の研究や具体的な啓発活動などの取組を検討する「海洋プラスチックごみ削減のための啓発活動に関する検討会」を設置。



令和4年1月 「まちのキレイが海のキレイに つなげよう未来への∞（ループ）」をキャッチコピーとした一斉清掃と共通チラシ等を用いた啓発活動を実施することを合意。



令和4年7月 8市連携での取組の意義等を再確認し、今年度の取組状況等の共有や共通課題の議論を行っている。

3 今年度の取組



陸や川や海でつながる8市が連携して実施。

- ①海、川、まちのクリーン
キャンペーン
- ②市民等への周知啓発

4 8市連携クリーンキャンペーンの取組

海岸清掃



河川清掃



まちなか清掃



清掃活動の実施における各市の工夫事例

○清掃活動への参加促進のため、

- ・事業者や大学等と連携した取組の実施
- ・若い世代による意見交換会でのアイディアの活用

○市民の自発的な清掃活動の促進のため、ごみ拾いアプリの活用 など

5 市民等への周知啓発事例

8市共通啓発チラシ

食べられますか？



CREDIT CARD
1234 5678 9012 3456
1234 567890 123456

世界自然保護基金(WWF)によると、世界中の人々は、
毎週クレジットカード1枚分に相当する
5グラムのマイクロプラスチック粒子を摂取している
可能性があると言われています。
プラスチックごみは、雨や風によって街から川へ、
川から海へ流れ、魚が食べ、人に帰ってきます。
使い捨てプラスチックの使用を控え、
マイバッグやマイボトルを利用しましょう！

**まちのキレイが 海のキレイに
つなげよう未来への∞(ループ)**

8市連携 海洋プラスチックごみ削減キャンペーン
横浜市・川崎市・横浜青葉区・鎌倉市・藤沢市・相模原市・大和市・町田市

町田市：駅での啓発（桜美林大学との連携） 海洋プラスチックごみで作成したアート展示



6 今後について

- 海洋プラスチックごみ削減の啓発活動のため、引き続き一斉清掃に取り組む。
- 若い世代を含む幅広い世代への啓発について、企業や大学等との連携や各市の好事例の共有など8市連携の取組が可能か検討する。
- 今年度の効果や課題等を踏まえ、来年度の方向性を検討する。

※次回の検討会は8月を予定

7 参考：鎌倉市の取組

海をキレイに（清掃活動）

10月30日（日）10時～11時

8市連携海洋プラスチック ごみ削減クリーンキャンペーン



（公財）かながわ海岸美化財団HPより

まちをキレイに（啓発活動）

10月24日（月）～11月3日（祝）

かまくらプラごみゼロウィーク

海洋プラスチックごみ削減のための啓発活動強化期間として、市民団体や事業者の協力を得て集中的に啓発イベントを実施。

クリーンキャンペーンとの相乗効果を図る。

「かまくらプラごみゼロウィーク」
Zero Plastic Waste Week in Kamakura
～まちをキレイに海をキレイにつなげよう未来への∞（ループ）～
2022年10月24日（月）～2022年11月3日（祝）

まちをキレイに（啓発事業）	海をキレイに（清掃活動）
市の主催・共催事業 観光客向けごみ持ち帰りキャンペーン 図書館巡回展 プラごみアップサイクル作品展示など	8市連携の海洋プラスチックごみ削減 クリーンキャンペーン 2022年10月30日（日）10時～11時 参加申し込みは不要 清掃用具の貸し出しあり！
協力企業・団体による事業	一こもらの募集です！

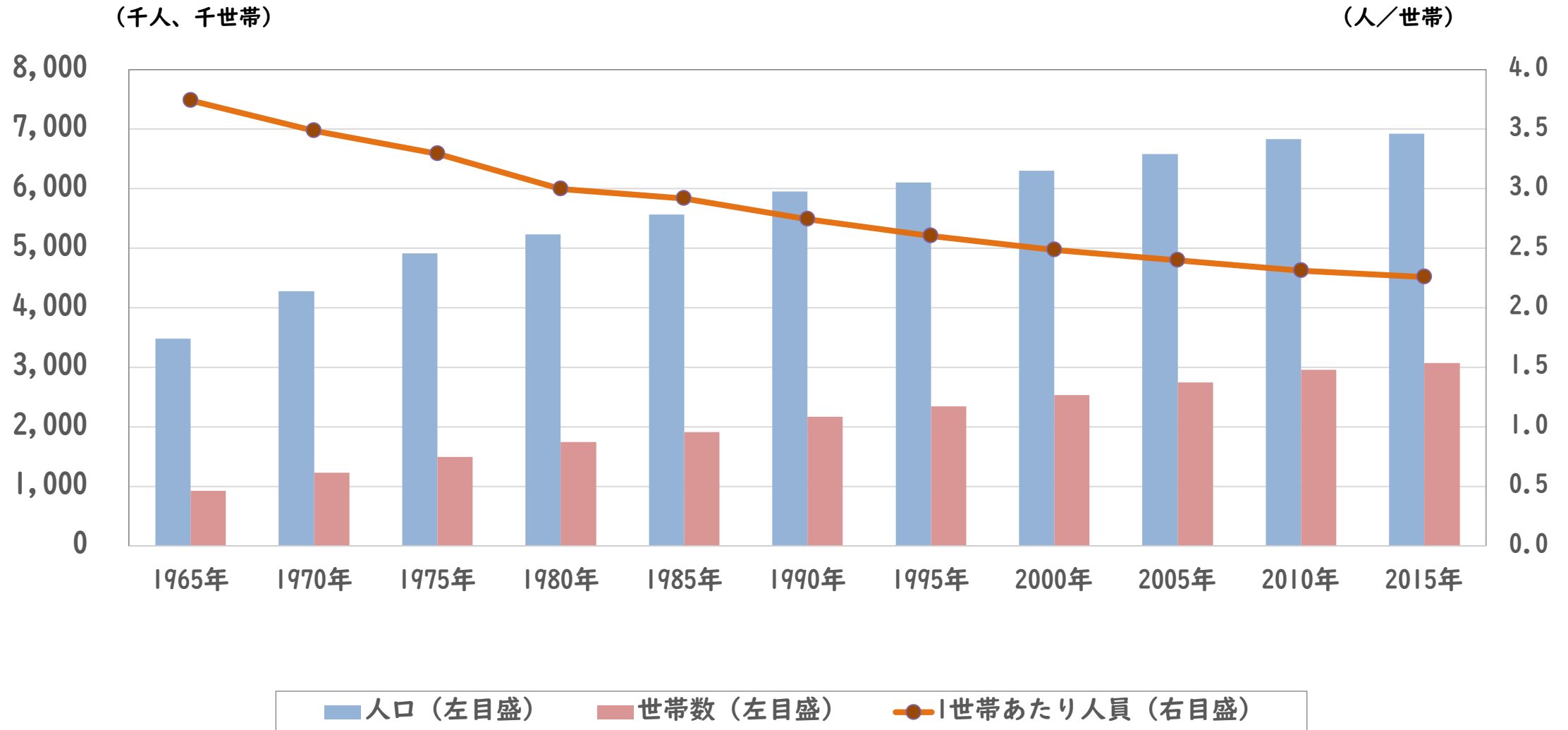
日頃から実施されているイベント、清掃活動、スタンプラリー、ブース展示などを、「かまくらプラごみゼロウィーク」の期間にあわせて実施しませんか。
取組内容は、例えば、レジ袋を断った方やマイボトル持参の方への店舗のポイント加算などの特典を付与する、プラスチック製ストローは提供しない、テイクアウト商品のプラスチックを回収する、店舗・事業所等の周辺の清掃活動をする、などが考えられます。
もちろん、日ごろから実施している取組を行う、ビーチクリーンへ参加する、「かまくらプラごみゼロウィーク」のPRに協力する取組もOKです。
多くの企業・団体様の御参加・御協力をお待ちしております！

お申込方法
別紙の参加申込用紙を御提出ください
受付期間：2022年8月10日（水）まで

鎌倉市環境部環境保全課 〒248-8686 鎌倉市園成町18番10号
TEL: 0467-61-3443 FAX: 0467-23-8700 メール: hozen@city.kamakura.kanagawa.jp

2040年頃の未来に予測される課題

8市の現状（総人口・総世帯数の推移）

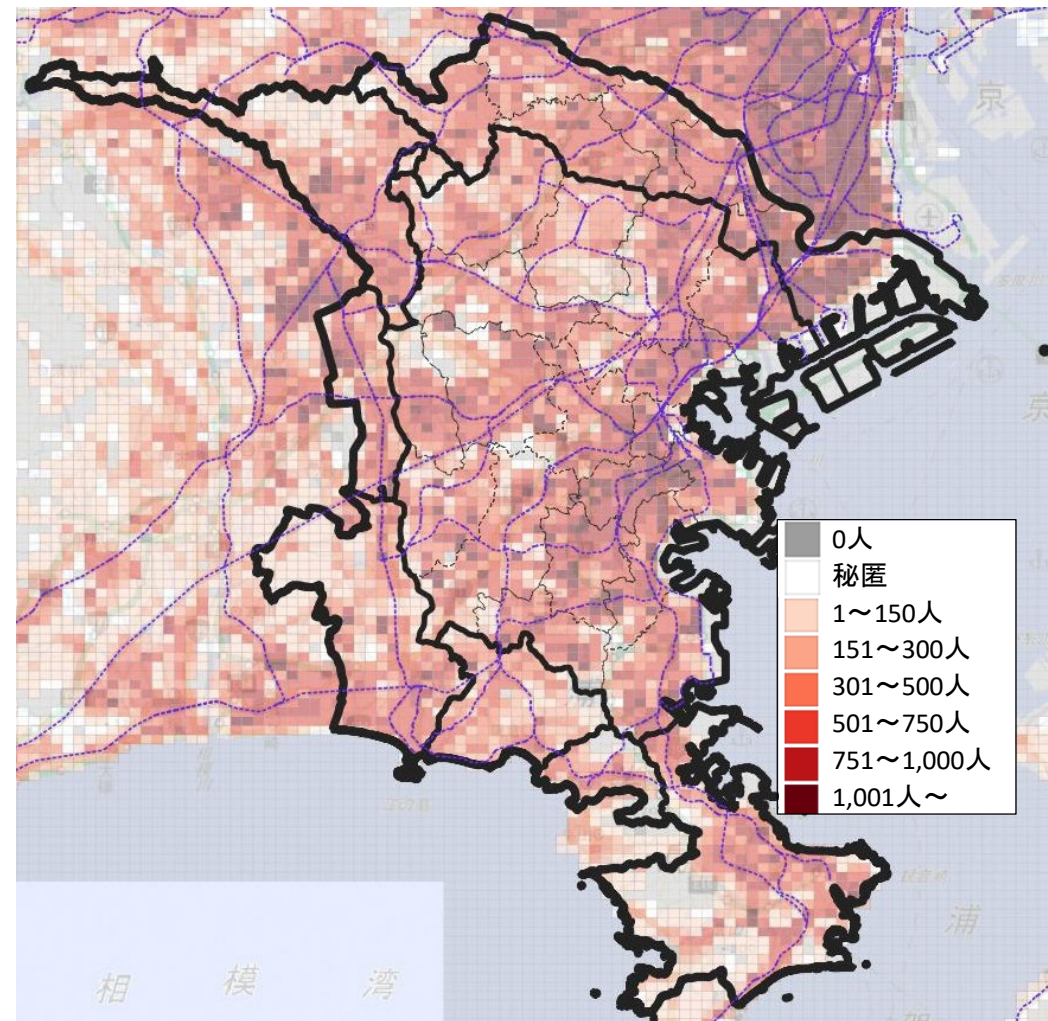


8市の現状（年齢3区分別構成比・高齢者の人口分布）

	人口（人）	年齢3区分別構成比		
		年少人口	生産年齢人口	高齢者人口
横浜市	3,724,844	12.7%	64.0%	23.4%
川崎市	1,475,213	12.8%	67.7%	19.5%
横須賀市	406,586	11.5%	58.8%	29.7%
鎌倉市	173,019	11.9%	57.4%	30.6%
藤沢市	423,894	13.6%	63.0%	23.4%
逗子市	57,425	11.8%	56.7%	31.5%
大和市	232,922	12.9%	64.2%	23.0%
町田市	432,348	13.0%	61.4%	25.6%
8市計	6,926,251	12.7%	64.0%	23.3%

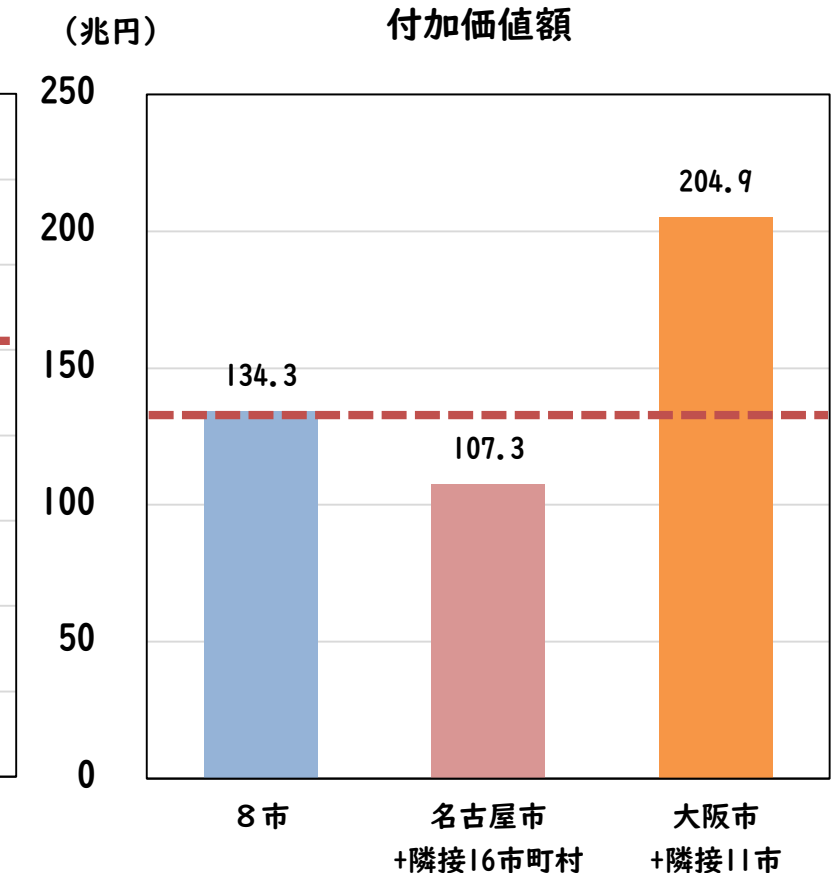
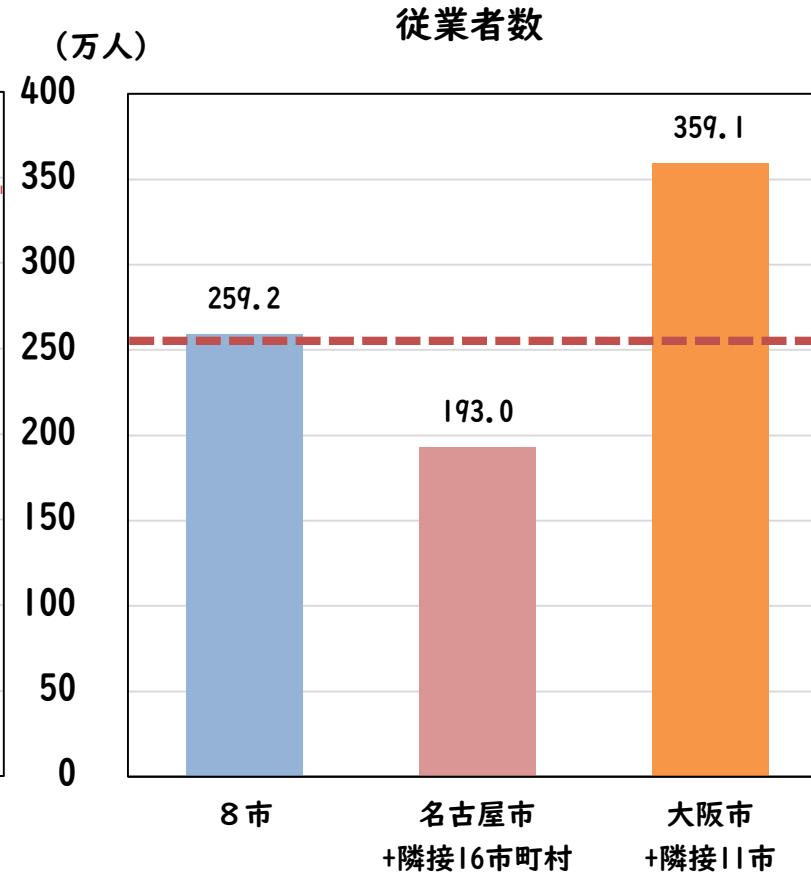
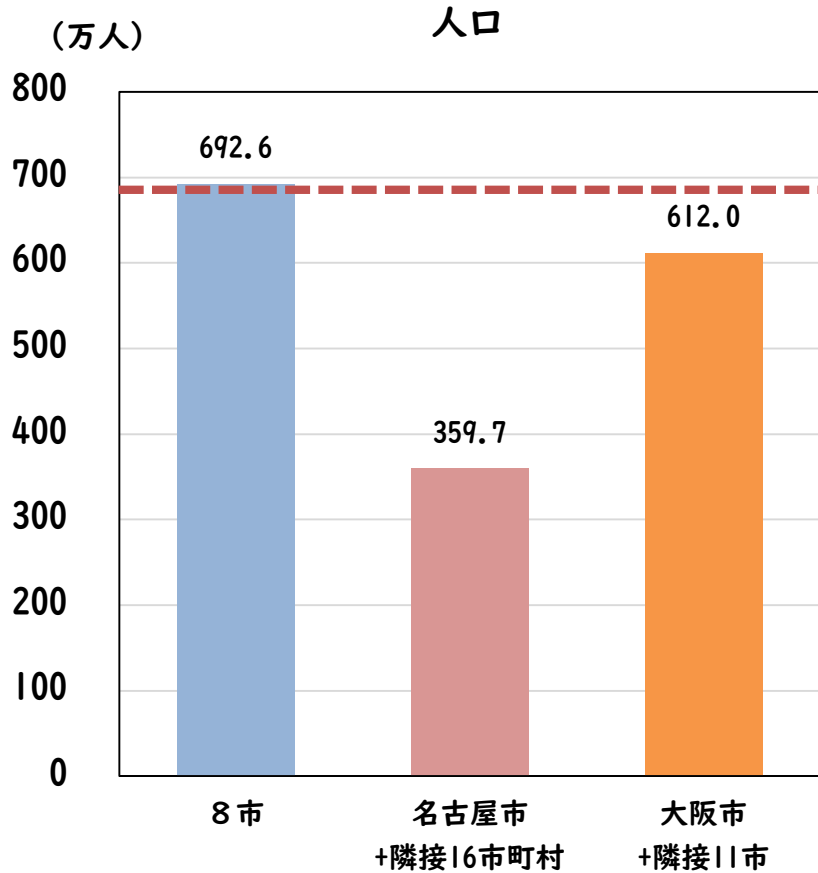
出所：総務省統計局「国勢調査」

1都3県の
総人口の約2割
に相当する規模



500mメッシュあたりの人数による塗り分け

8市の現状（経済）



※「名古屋市+隣接16市町村」：名古屋市、飛島村、蟹江町、あま市、大治町、清須市、北名古屋市、豊山町、春日井市、瀬戸市、尾張旭市、長久手市、日進市、東郷町、豊明市、大府市、東海市
 「大阪市+隣接11市」：大阪市、豊中市、吹田市、摂津市、守口市、門真市、大東市、東大阪市、八尾市、松原市、堺市、尼崎市

【参考】面積

	8市	名古屋市 +隣接16市町村	大阪市 +隣接11市	東京都区部
面積(km ²)	906.73	835.95	676.54	618.80

出所：【人口】総務省統計局「平成27年国勢調査」
 【従業者数及び付加価値額】総務省統計局「平成28年経済センサス-活動調査」

出所：総務省統計局「平成27年国勢調査」

8市の現状（経済）

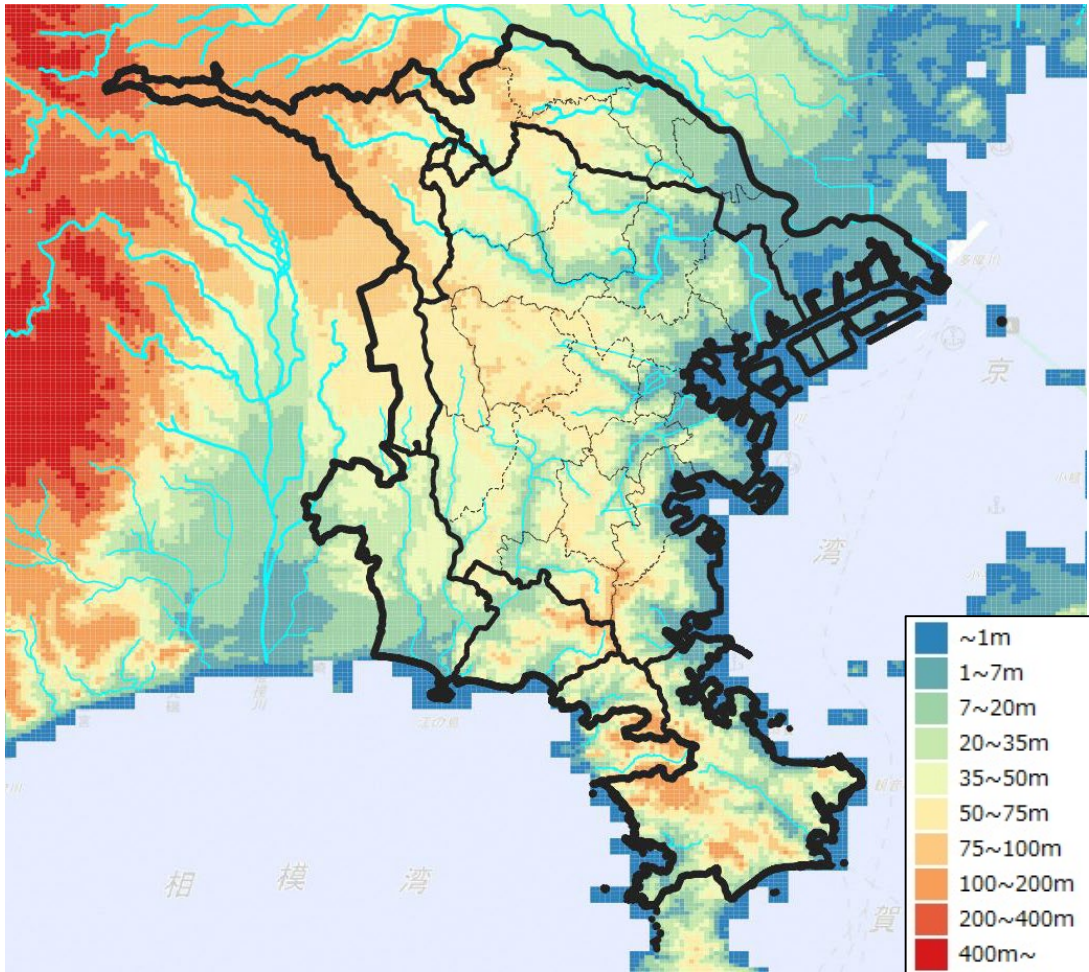
8市の事業所数・従業者数（民営事業所）

	事業所数		従業者数	
	2016年の事業所数 （事業所）	2012年からの 増減率	2016年の従業者数 （人）	2012年からの 増減率
横浜市	114,930	0.42%	1,475,974	3.32%
川崎市	40,934	0.04%	543,812	5.64%
横須賀市	12,816	-4.43%	120,811	-2.67%
鎌倉市	7,226	-0.03%	68,800	3.47%
藤沢市	13,027	0.64%	158,104	5.79%
逗子市	1,810	-3.31%	12,981	-3.47%
大和市	7,479	-1.33%	76,799	0.63%
町田市	12,106	1.01%	134,323	5.37%
8市計	210,328	-0.03%	2,591,604	3.64%
東京都区部	494,337	-0.88%	7,550,364	4.69%
中京圏	485,562	-2.50%	5,431,814	2.19%
近畿圏	869,879	-3.01%	9,147,951	1.40%

出所：総務省統計局「経済センサス」

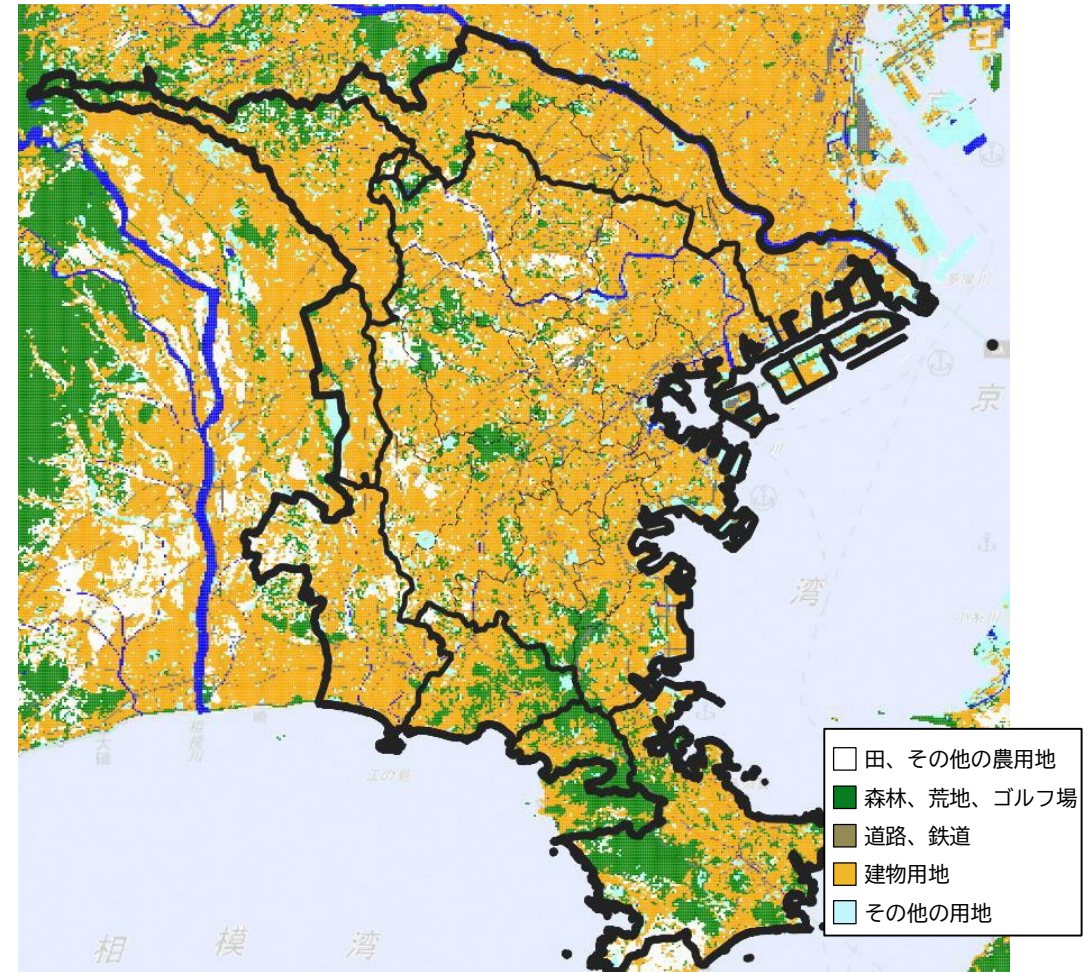
8市の現状（地形・土地利用）

8市の地形（標高及び主な河川）



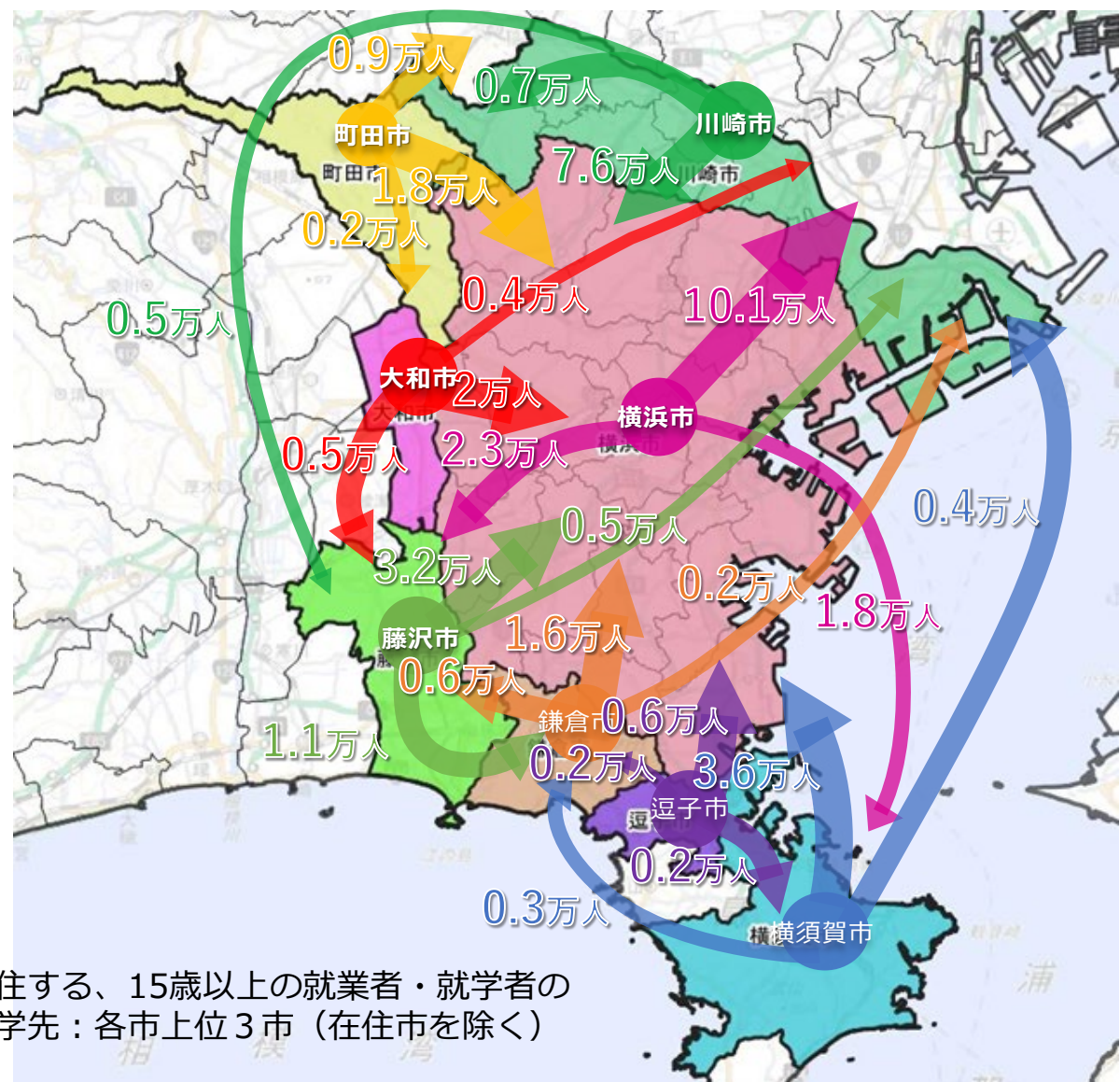
出所：国土数値情報ダウンロード「河川」（2008年度）（1級河川、2級河川のみ）
国土数値情報ダウンロード「標高・傾斜度5次メッシュデータ」（2009年度、250mメッシュ）

8市の土地利用の状況



出所：国土数値情報ダウンロード「河川」（2008年度）（1級河川、2級河川のみ）
国土数値情報ダウンロード「標高・傾斜度5次メッシュデータ」（2009年度、250mメッシュ）

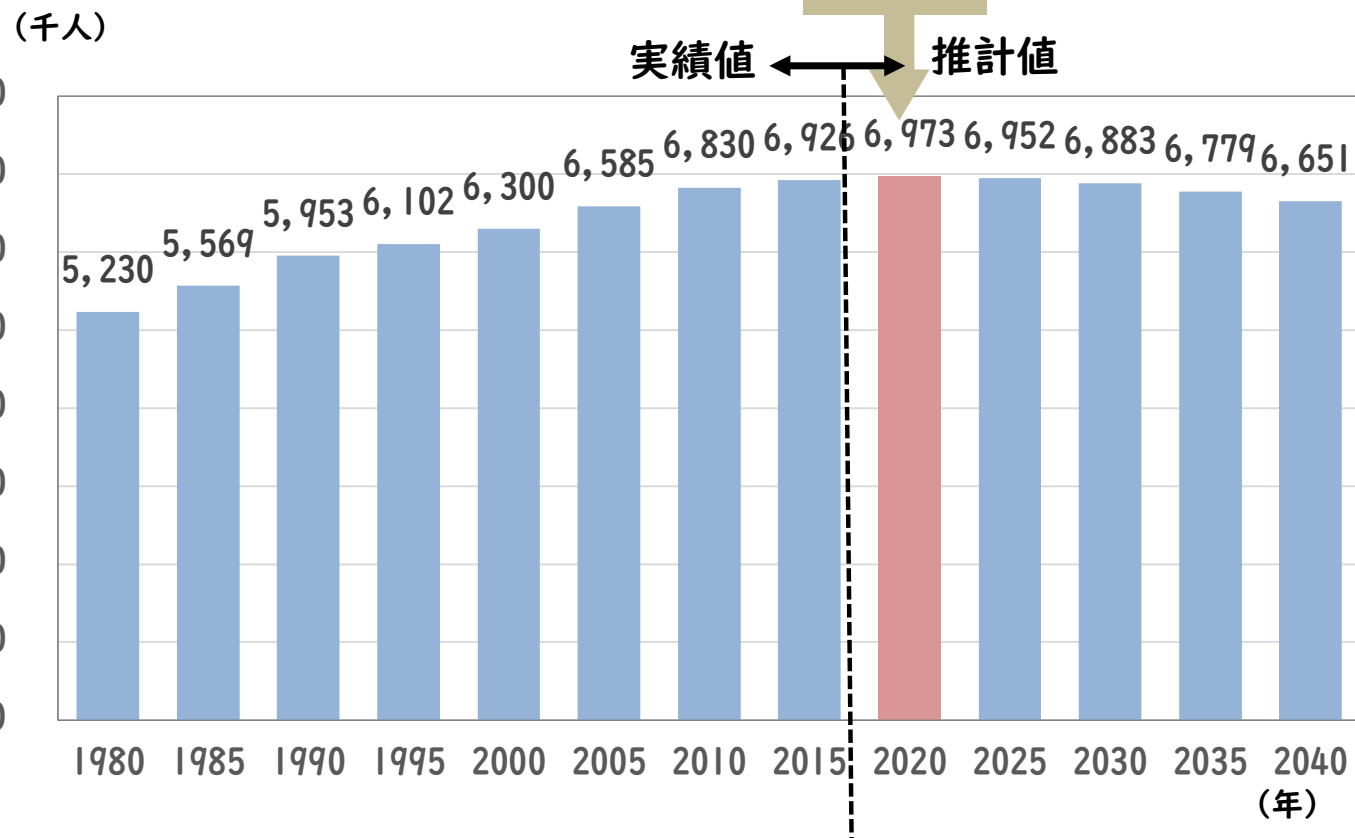
8市の現状（人の移動）



8市に常住する、15歳以上の就業者・就学者の通勤・通学先：各市上位3市（在住市を除く）

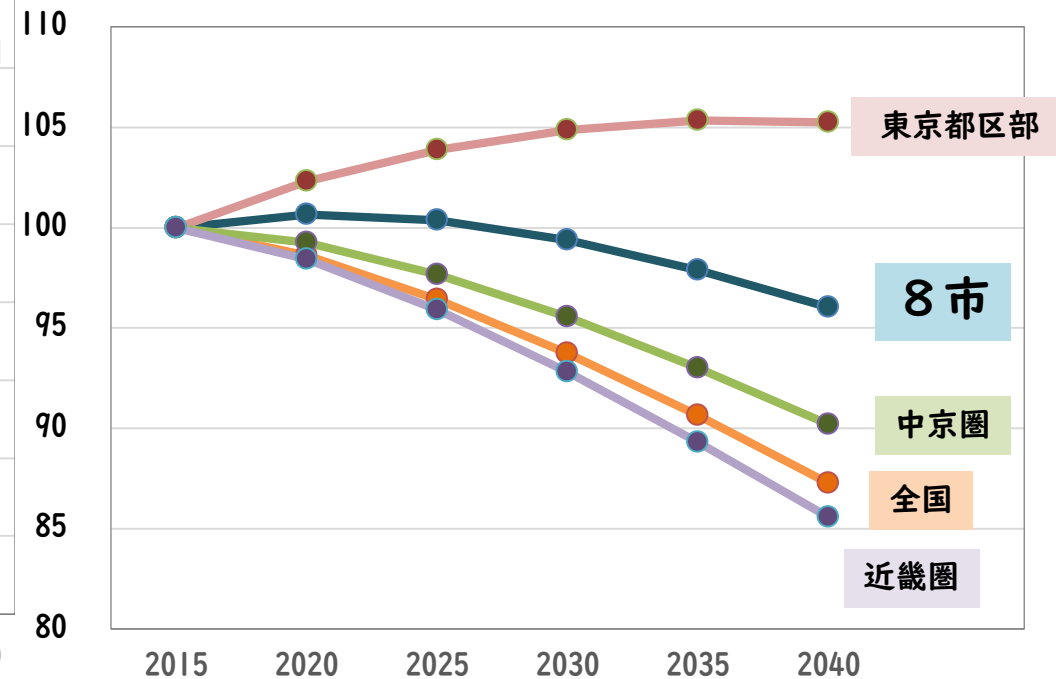
8市未来予測（総人口）

8市の総人口の推移



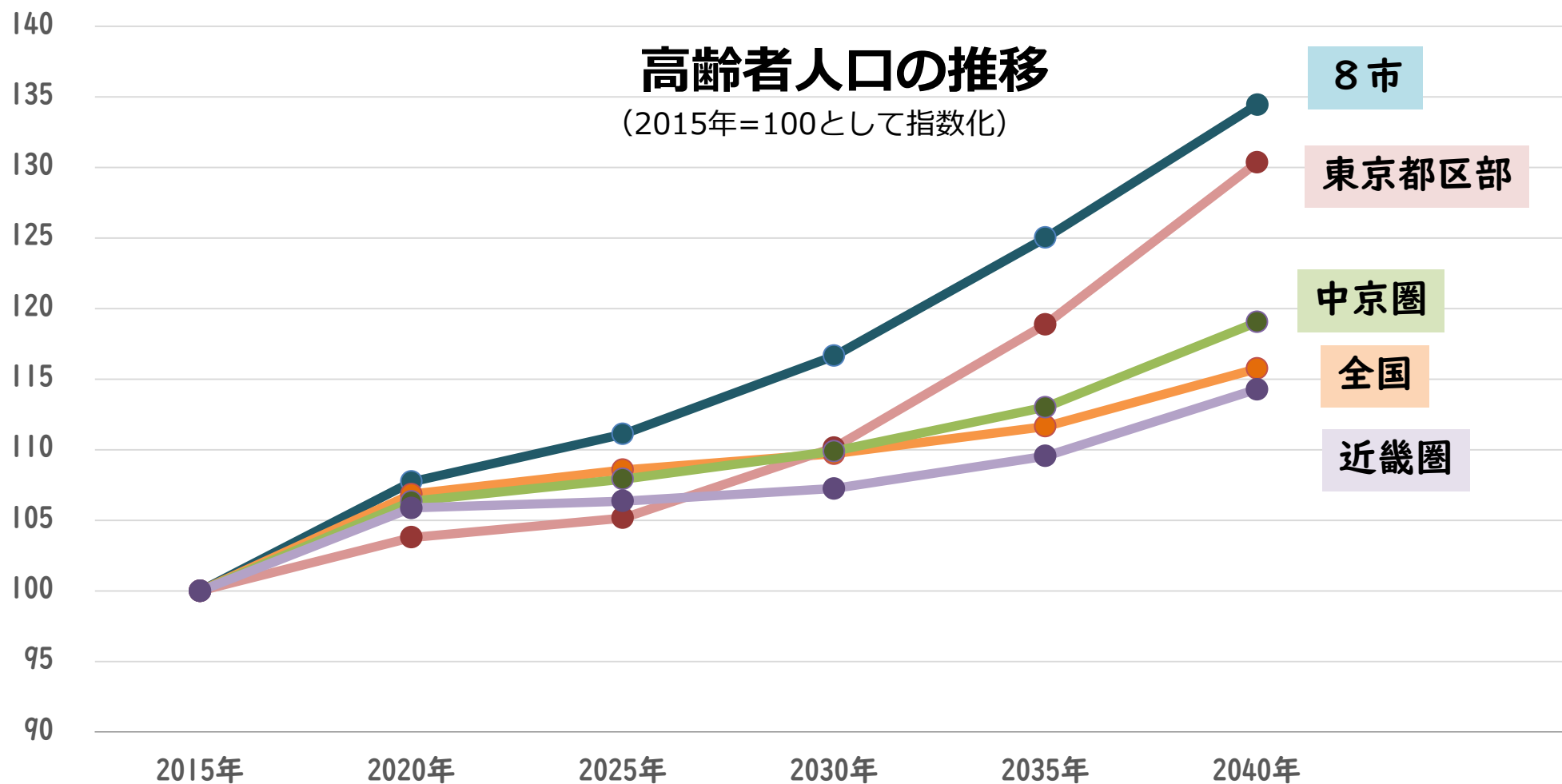
8市・全国・東京都区部・中京圏・近畿圏の比較

(2015年=100として指数化)



出所：総務省統計局「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来人口推計」

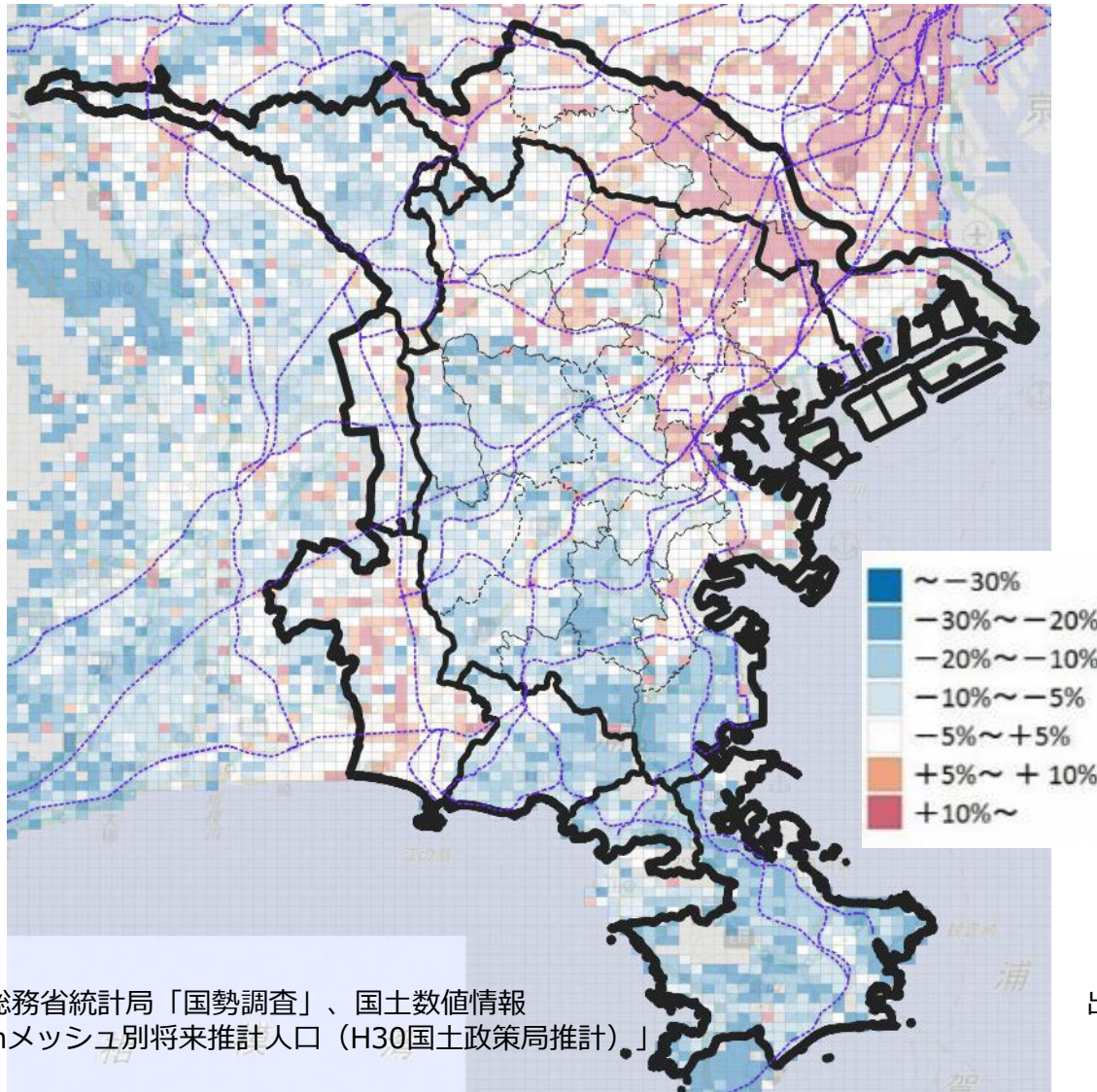
8市未来予測（高齢者人口）



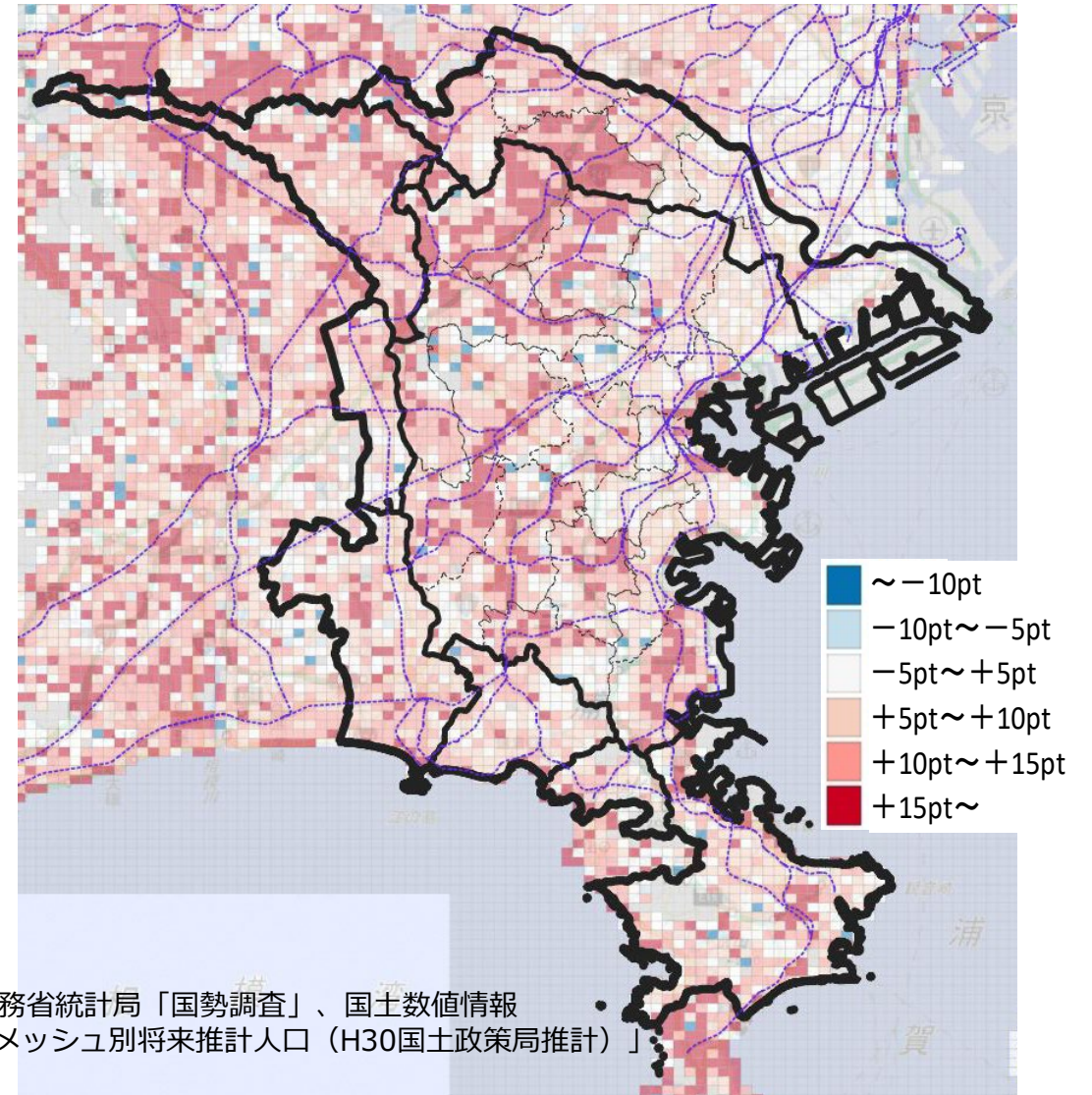
出所：総務省統計局「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来人口推計」

8市未来予測（人口増減率・高齢化率）

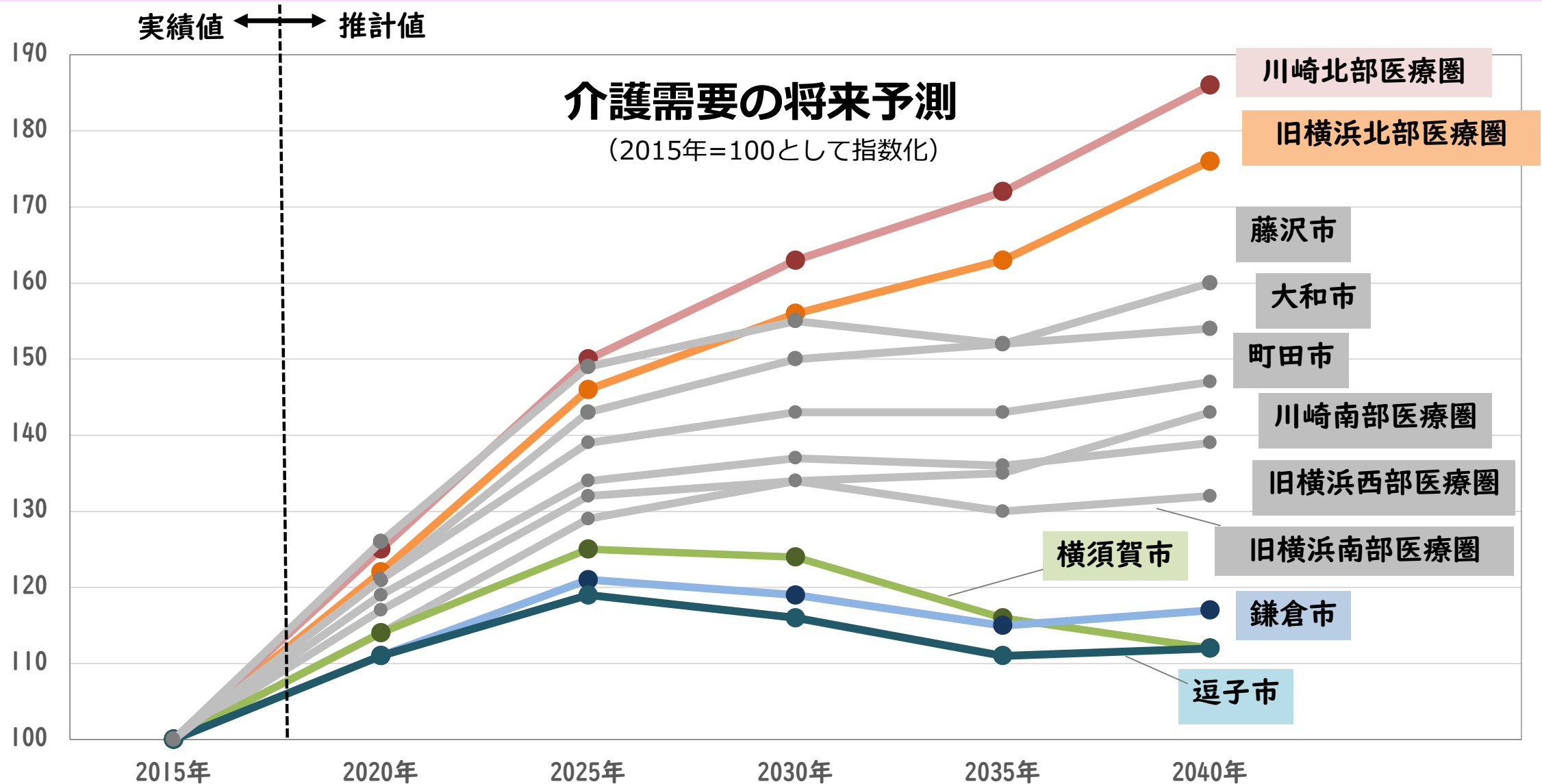
2015年から2040年にかけての人口増減率



2015年から2040年にかけての高齢化率の変化



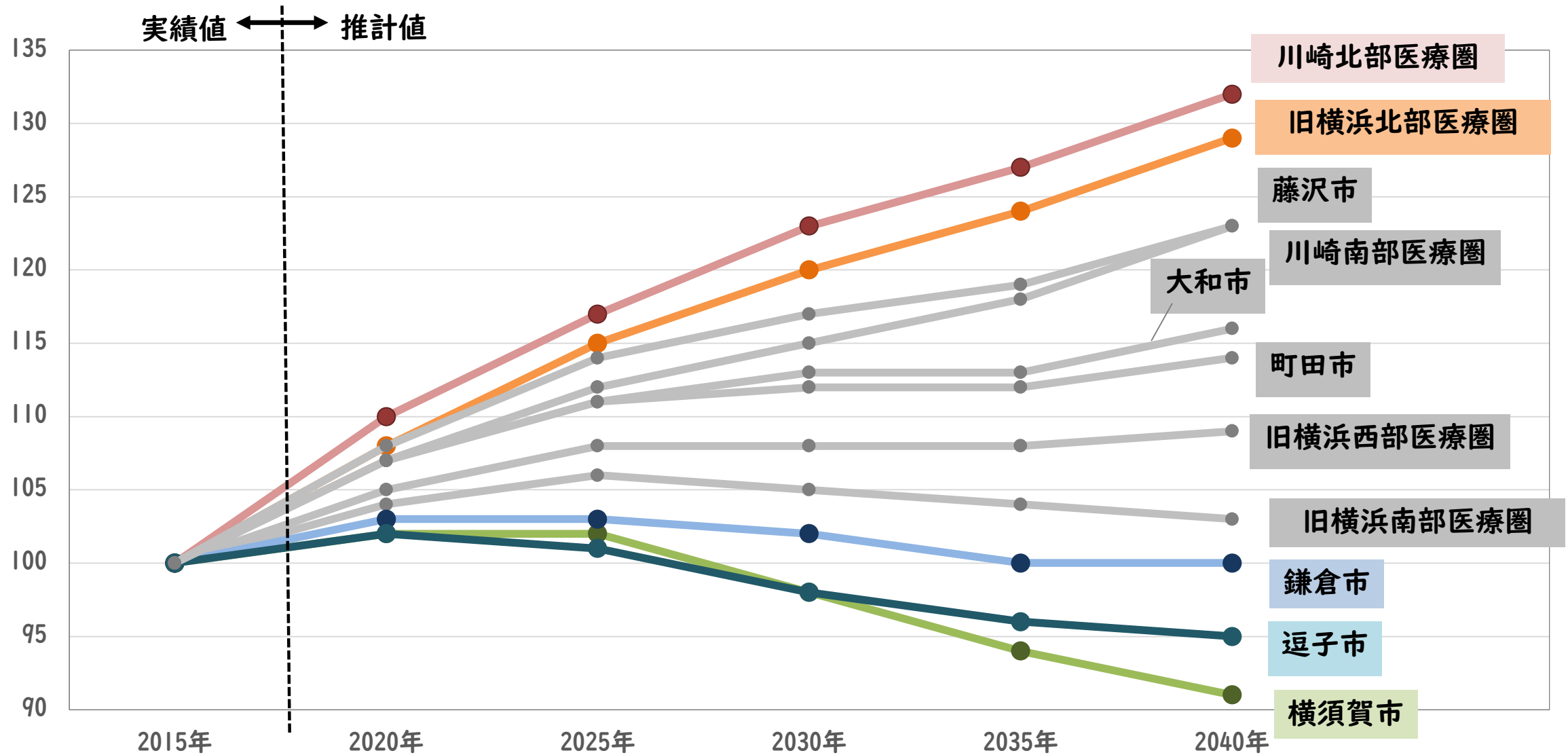
8市未来予測（各市の介護需要の将来予測）



※旧横浜北部医療圏、旧横浜西部医療圏、旧横浜南部医療圏については、2018年度から「横浜医療圏」に統合

出所：日本医師会「地域医療情報システム」

8市未来予測（各市の医療需要の将来予測）



※旧横浜北部医療圏、旧横浜西部医療圏、旧横浜南部医療圏については、2018年度から「横浜医療圏」に統合

出所：日本医師会「地域医療情報システム」

8市未来予測（インフラ整備）

鉄道・道路等の主なプロジェクトのおおよその位置関係（イメージ図）

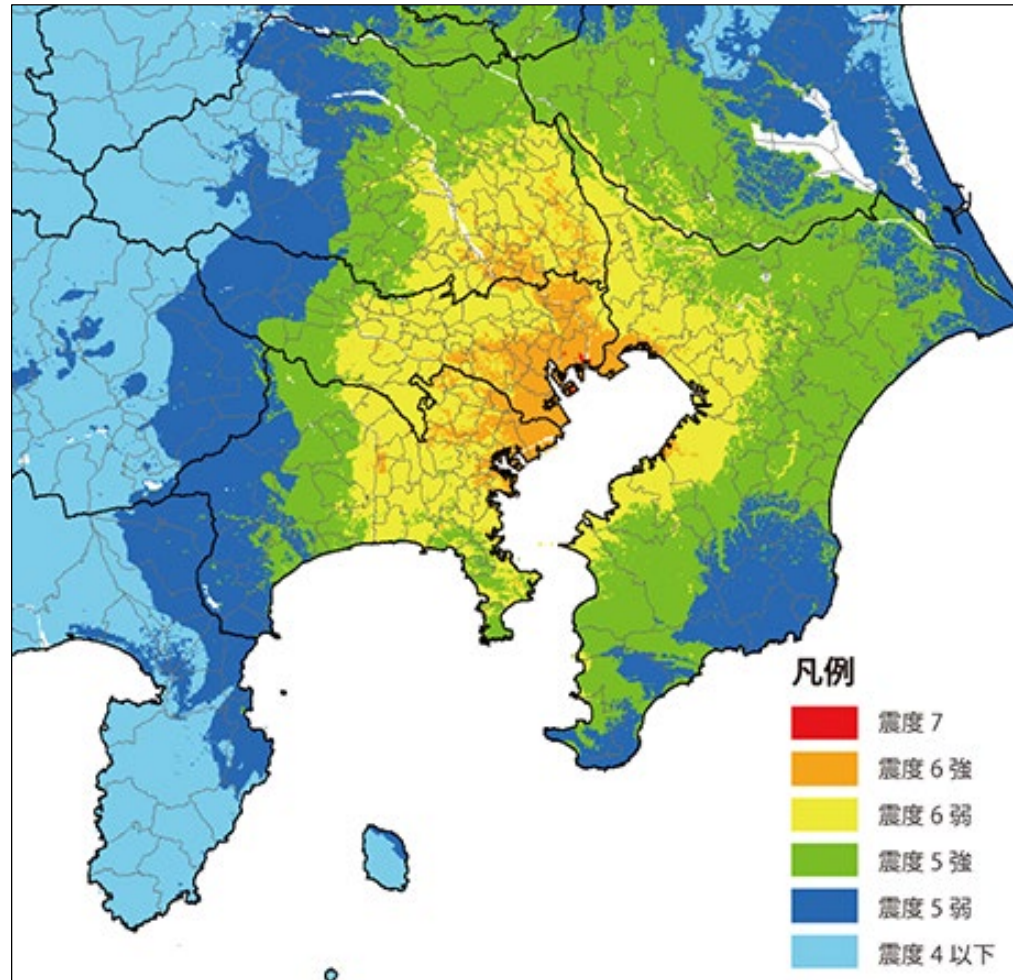


出所：2021年時点の公開情報に基づき作成

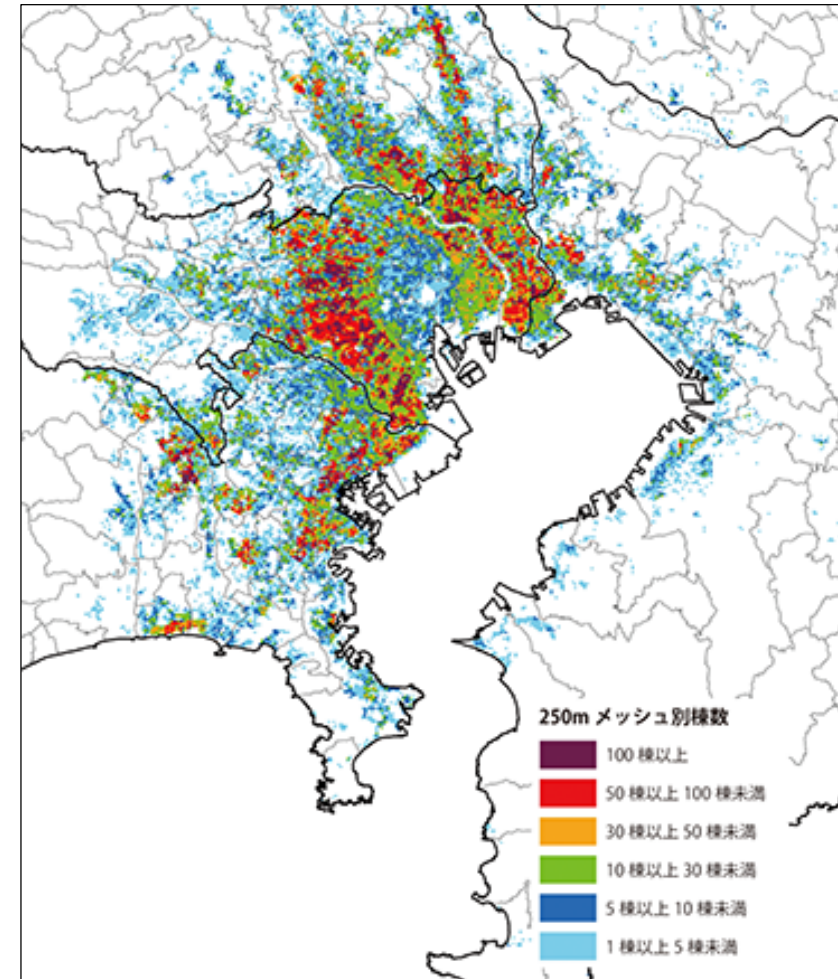
8市未来予測（災害）

首都直下型地震の被害予想

震度予想



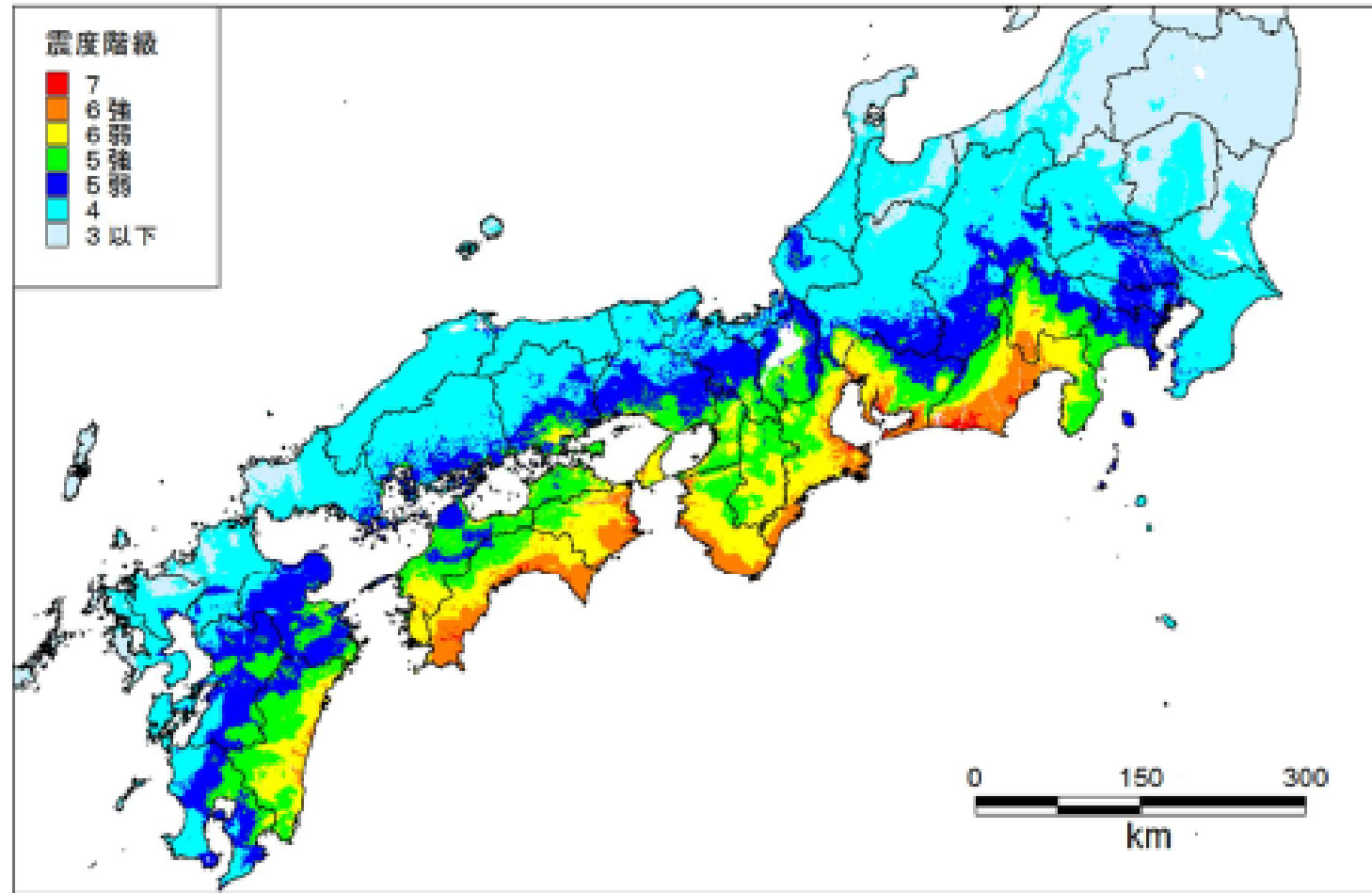
倒壊する建物（複数）の予想



出所：「首都直下地震の被害想定と対策について（最終報告）」（内閣府、2013年）

8市未来予測（災害）

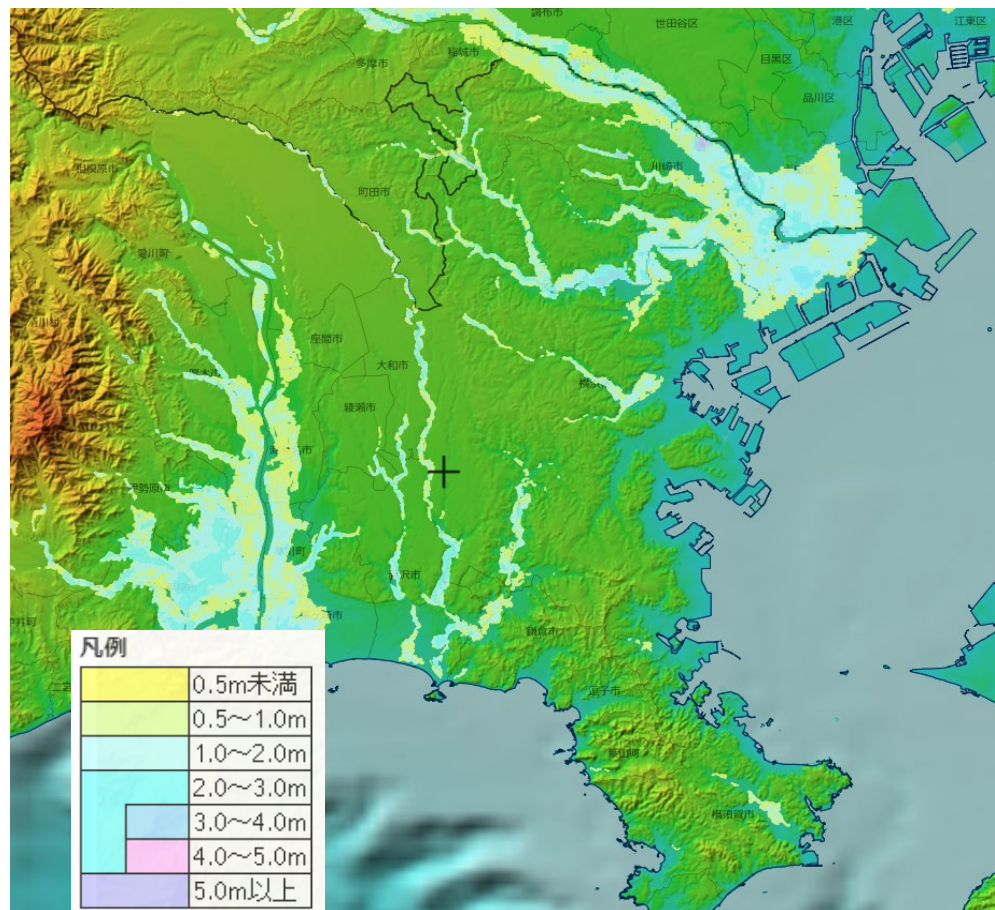
南海トラフ地震の震度予測（基本ケース）



基本ケースの震度分布

8市未来予測（災害）

洪水浸水想定区域

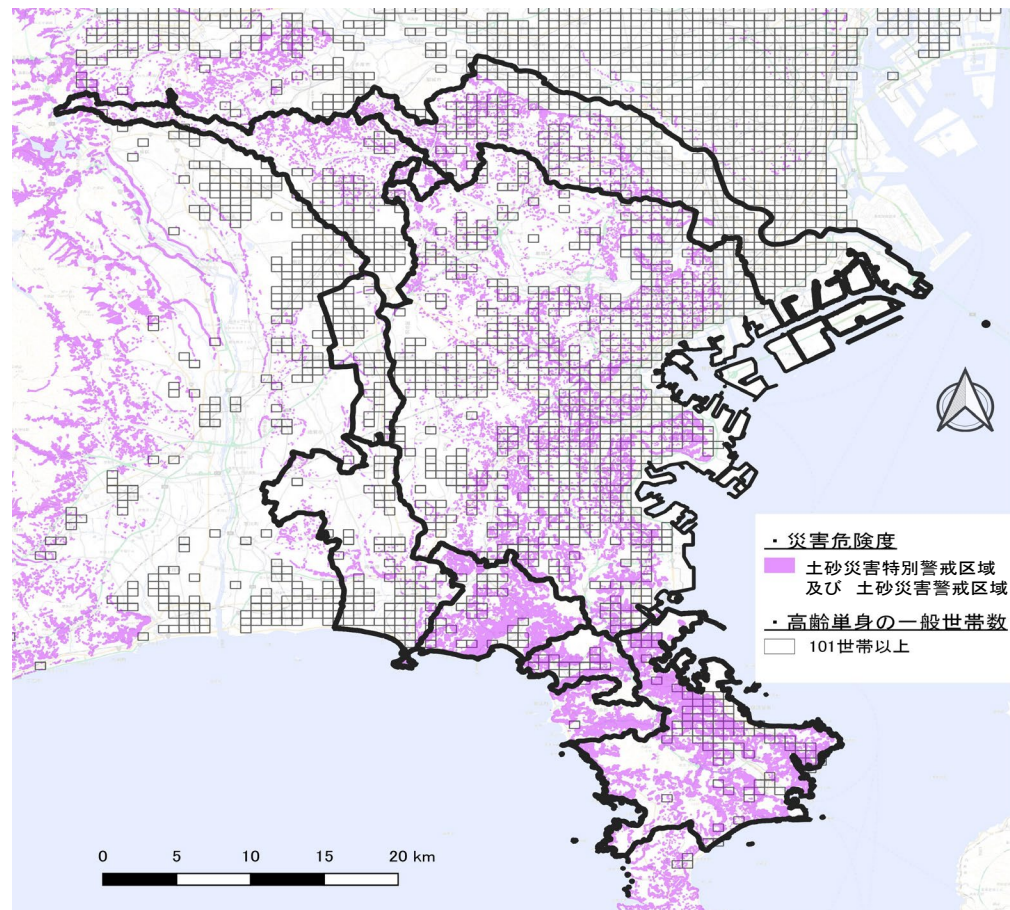


※「それぞれの地域で、年間に1/70~1/150の確率で発生するレベルの大雨が降った場合」の想定と概ね同意。

なお、凡例は河川が氾濫した際の水深を示す

出所：国土地理院ホームページ「重ねるハザードマップ」

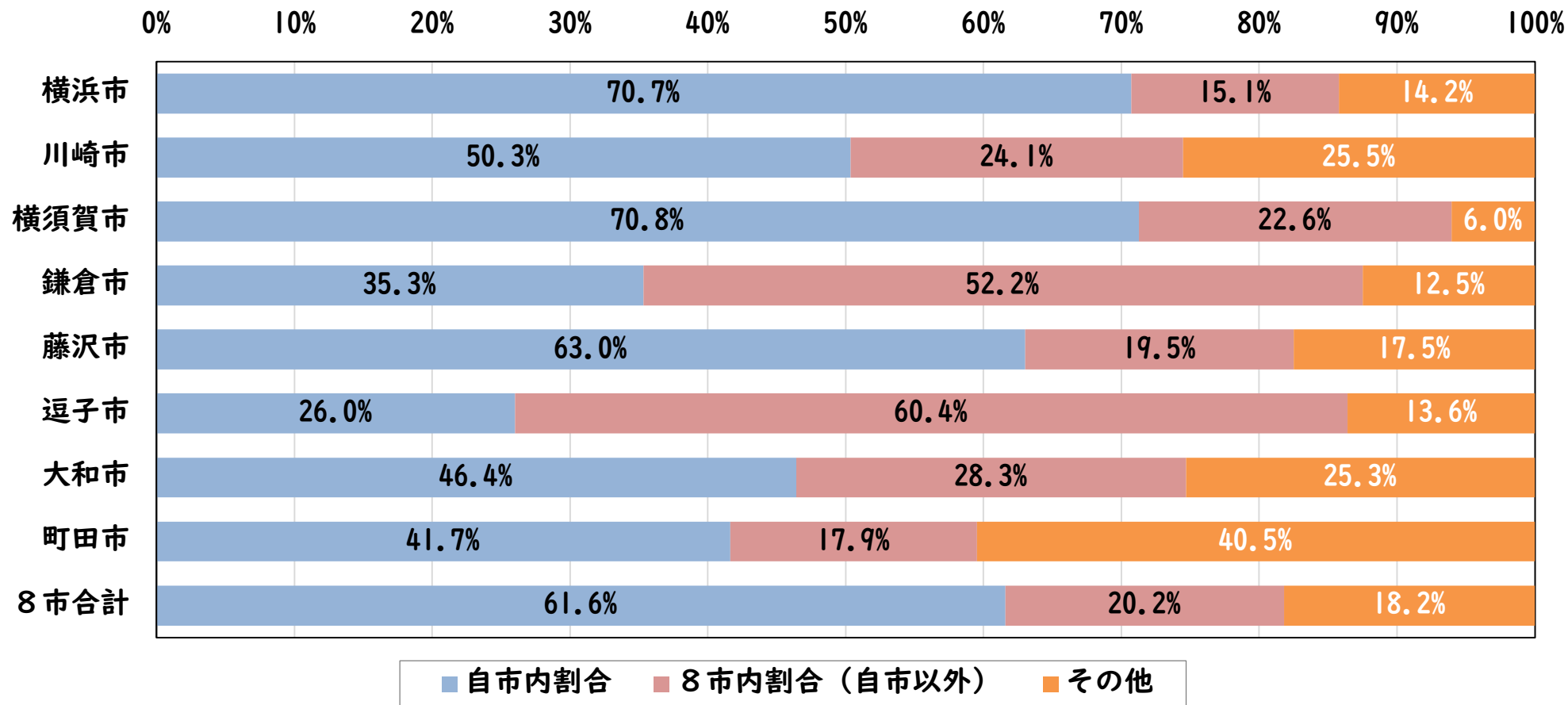
高齢者単身世帯の分布と土砂災害警戒区域の重なり具合



出所：総務省「国勢調査」、国土交通省「国土数値情報」に基づき作成

8市未来予測（行政職員の状況）

8市職員の居住市

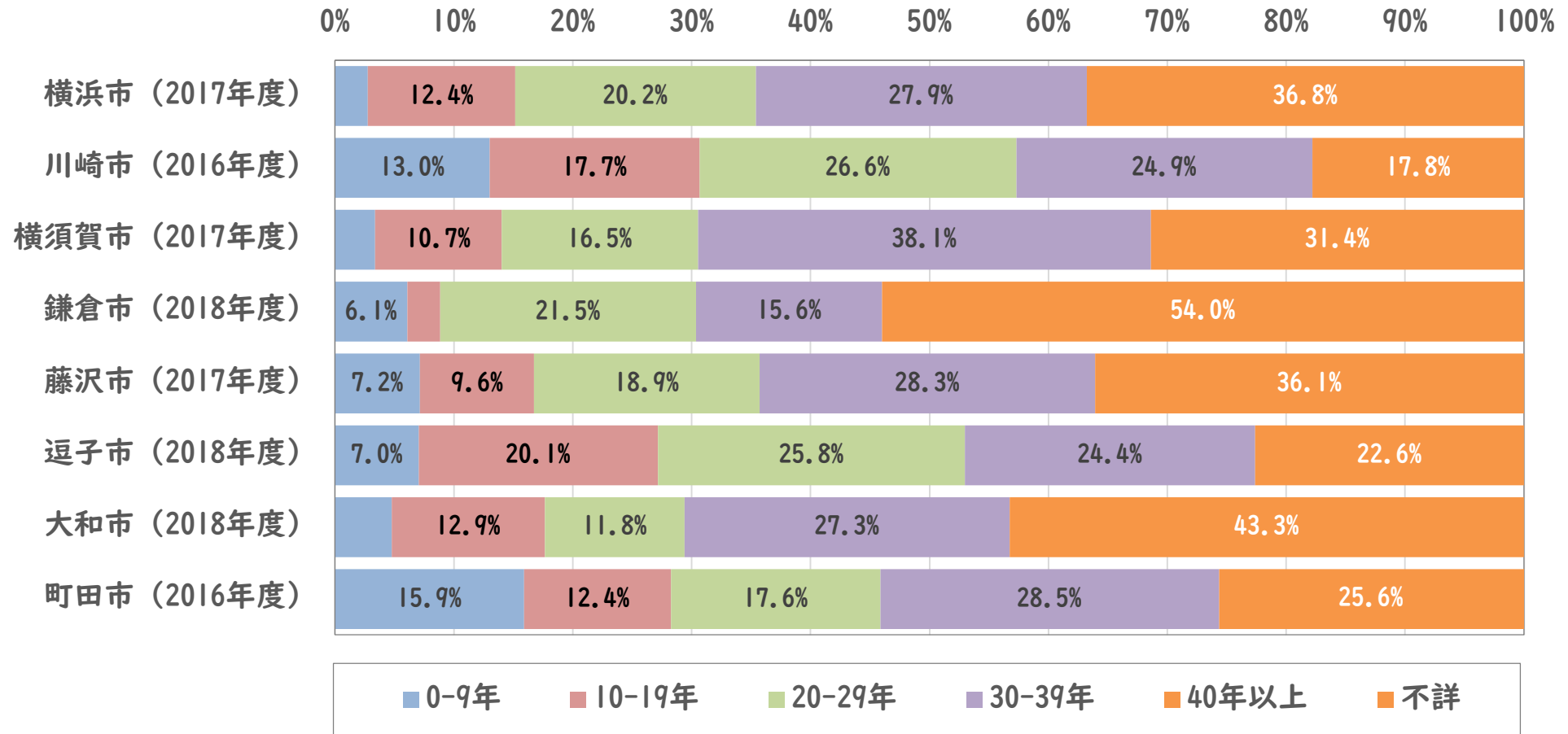


※対象職員：一般行政部門の職員数（企業局所属職員・学校現場職員、派遣法派遣者等を除く）

※大和市：令和2年4月1日時点、横浜市：令和2年4月13日時点、川崎市・横須賀市・鎌倉市・藤沢市・逗子市・町田市：令和2年12月1日時点

8市未来予測（公共施設の老朽化）

8市における公共施設老朽化の状況（経過年数別の床面積構成比）



8市未来予測（公共施設の老朽化）

8市における老朽化した公共施設の立地状況



凡例

- 建築年度：1971～1980年度
- 建築年度：1970年度以前

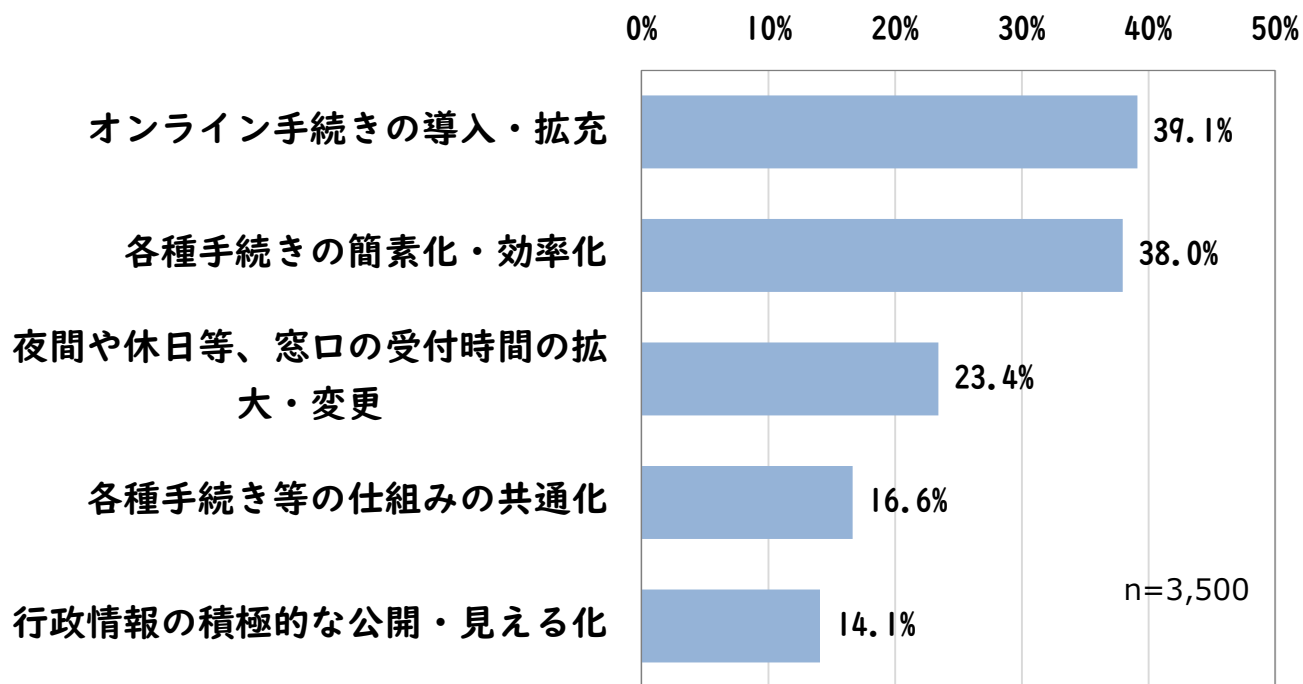
※対象となる施設

- ・ 教育（学校除く）、文化、コミュニティ、スポーツ、レクリエーション用の市民利用施設
- ・ 建築年度が1980年度以前（新耐震基準導入以前）
- ・ 建築年度や所在地が分かるもの

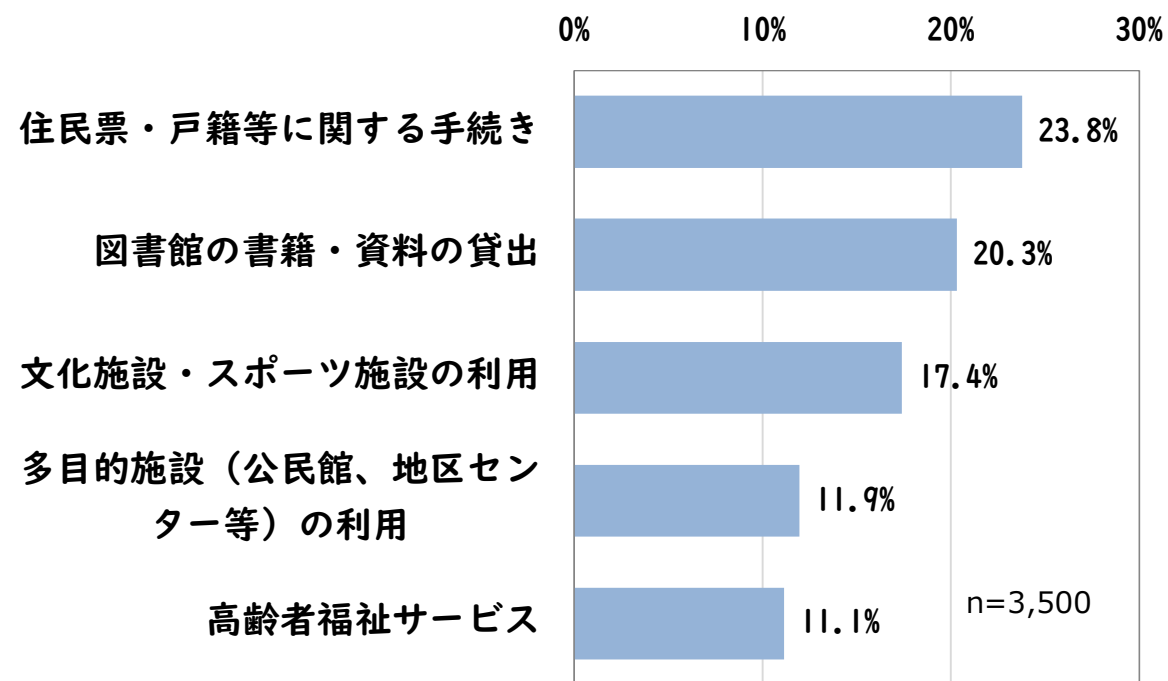
8市未来予測（公共サービスに対する住民の意識）

2020年11月27日～12月1日に、調査会社の保有するモニター回答者3,500件を対象にインターネット調査を実施

公共サービスに対し、 改善が必要と思われること



住んでいた市以外で 利用したい公共サービス



8市の未来予測（8市の特徴）

8市の特徴のまとめ

- ① 東京都区部と隣接し、全国的にも大きな人口・経済規模を有する圏域
- ② 市域を越えた連続性を有する圏域
- ③ 各市が共通する課題を内包した圏域
- ④ 人口構造の変化の進み方には、圏域内でも違いが見られる

8市の未来予測（8市連携の方向性）

① 将来の脅威に対する備え

現状のままでは将来的にサービスの維持が困難になると考えられることに対して、複数の市が連携し、サービスの提供方法や体制の改善、ニーズ増大への対応等に取り組むことにより、将来にわたって行政サービスの維持・向上を図る。

② 将来の機会と捉えるための備え

今後の技術革新や社会環境の変化により、8市にプラスの効果をもたらす可能性のある様々な機会を的確に捉え、人口減少の緩和や経済の活性化等を図っていくため、複数の市が連携して取組を進める。

③ 各市の保有する資源の有効活用・相互補完

現状において各市の保有する公共施設や人的資源、情報・ノウハウ等を、市域を越えて有効活用することにより、住民へのサービス向上を図ったり、供給が不足するサービスの相互補完を図るために、複数の市が連携した取組を進める。